



「日露文化・芸術フェスティバル」開催

2017年6月25日～27日、サハリン州ユジノサハリンスク市・コルサコフ市・ホルムスク市の美術館及び文化会館にて「日露文化・芸術フェスティバル」が開催された。本フェスティバルはサハリン州政府が日露の文化交流の促進を目的に企画したもので、北海道からは文化・芸術関係者30名が参加し展示会及び公演を行った。

初日にユジノサハリンスク市内のチェホフ文学記念館、チェホフ劇場、州立美術館の3か所で展示会、公演が行われた。チェホフ文学記念館では生け花ショーや茶道の振る舞いが行われ、日本の抹茶を初めて口にしたロシア人女性は「苦くて珍しい味だが美味しい。着物が素敵なので着てみたい。」と初めて触れる日本文化に興味津々の様子であった。チェホフ劇場では道内の民謡団体が力強い歌と演奏を披露した他、道内ジャズ団体とサハリンジャズ団体がコラボし迫力のある公演で会場を盛り上げた。州立美術館では水墨画やバレエをモチーフにした水彩画、羊毛フェルト作品がロシア人来館者の関心を集めた。

2日目、3日目はコルサコフ市、ホルムスク市の文化会館にて初日と同様に生け花ショーや茶道の振る舞い、音楽公演が行われた。会場は全て満員となりサハリン州の人々の日本文化への関心の高さが窺えた。またユジノサハリンスク市内では美術館での展示が引き続き行われた他、生け花のワークショップも行われた。

本フェスティバルは、サハリン州の多くの人々が日本文化に触れることが出来る素晴らしい機会となったことから、今後もこのような文化・芸術面の交流により北海道とサハリン州の相互理解が深まり、両地域の関係がより良いものとなっていくことを期待したい。



お茶の振る舞いを受けるロシア人男性



生け花ショー



ジャズ公演



フェルト衣装を着るロシア少女